

旭労災病院ニュース

病院情報誌 第 65 号 平成 23 年 4 月 1 日発行

発行所：旭労災病院

〒4888888

尾張国中津守北61番地

TEL 0561-54-3131

FAX 0561-52-2426

<http://www.asahih.rofuku.go.jp/>

麻酔の危険性

麻酔科部長 滝塚 敦



こんにちは、麻酔科の滝塚です。私は平成7年に産業医科大学を卒業し、某企業の産業医を経て、当院に赴任して早いもので10年になりました。今後とも宜しく御願ひ致します。

さて今回のテーマは“麻酔の危険性”です。日本麻酔科学会では、麻酔科認定病院における麻酔科管理症例を対象として1992年に麻酔関連偶発症例調査が始まり、1992年～1993年の予備調査、1994年～1998年第1次調査、1999年～2003年の第2次調査、2004～2008年の第3次調査と続き、最近では麻酔科認定病院約900施設からの回答率は90%を超え、データベースの母集団は年間130万症例に達しています。このような大規模調査は世界でも類を見ないものであり、貴重な資料が集積されつつあります。

では、最近の第3次調査の結果を見ていきましょう。危機的偶発症（原因の如何を問わず、麻酔が行われている状況下で生命危機状態となった症例）による死亡率（術後30日以内）は全体では5.56/1万症例、麻酔管理が原因の偶発症による死亡率は0.10/1万症例（10万例に1例）でした。麻酔管理が原因の偶発症で死亡の転帰を辿った例としては、多い順に誤嚥10症例、主麻酔薬の過量投与9症例、輸液・輸血管理の不適切7症例、薬物投与（過量・選択不適切）6症例となっています。また、ASA PS 1の予定症例に限れば麻酔管理が原因の偶発症による死亡率（術後30日）は0.006/1万症例（167万例に1例）と極めて稀であり、麻酔の安全性は向上しつつあると考えられます。ちなみにASA PSとは、1962年、アメリカ麻酔学会（American Society of Anesthesiologists : ASA）が定め、多くの診療科で国際的に採用された患者の全身状態の評価（physical status : PS）分類を指します。

このように麻酔科医は周術期の安全性を向上させるために学会全体として日々努力しています。当院でもすべての全身麻酔は麻酔指導医、専門医が管理しており、安全性に関して常に細心の注意を払っておりますので、手術の必要な症例を安心して御紹介をしていただければ幸いです。

小児糖尿病外来を始めます

糖尿病内分泌内科部長 小川 浩平



本邦における小児1型糖尿病の発症率は15才未満人口10万人当たり1年間に約2人です。1993年のDCCTで示された結果(強化インスリン療法による糖尿病合併症の進展抑制が証明された)を受け、小児におけるインスリン治療が強化インスリン療法にシフトし、治療成績は向上しています。

小児2型糖尿病の発症率の報告はばらつきが大きく、約2~5人/10万人・年とされています。学校検尿で異常を指摘されても医療機関に受診しない場合もあり、肥満検診からより多くの2型糖尿病が診断されるという現状から、実際の発症率は報告されているものより多いと推測されます。広島県の調査では肥満2型小児糖尿病の57%が不登校の既往を有し、一人親家庭、親が糖尿病合併症を有するなど子供に対する関わりが不十分な家庭環境にあるものが58%にみられると報告されています。成人の2型糖尿病と同様に、生活背景に問題があるほど発症しやすく、コントロールは難しく、そして合併症を悪化させやすいのです。

コントロール不良の小児糖尿病では、成人後に重大な合併症に陥り、その後の人生を障害者として過ごしてゆくほかない症例が多数あります。1型糖尿病より2型糖尿病のほうが合併症を悪化させやすく、その理由として、治療の自己中断があっても自覚症状に乏しく治療の意義を感じられないことが挙げられます。

そこで平成23年4月より当院の糖尿病内分泌内科にて小中学生を対象とした糖尿病外来を始めました。学校の検診異常や病診連携登録医の先生方のご紹介などが受診契機となるかと思われます。当院の病診連携室にて予約を受け付けておりますので是非ご活用ください。我々内科医が診療にあたりますので、恐縮ですが今のところ未就学児を対象としておりません。

また、成人を対象とした糖尿病教育入院ですが、これまでは2週間を基本としておりました。平成23年4月から1週間に短縮したプログラムを用意しましたので、こちらもご利用いただければ幸いです。



新任医師紹介

4月以降、当院に新たに赴任した医師を紹介します。
皆様のお役に立てるようがんばりますので、よろしくお願いします。



循環器科医師

もりもと こうたろう
森本 高太郎

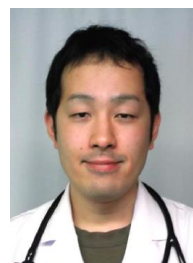
平成14年
名古屋市立大学卒



呼吸器科医師

ひじかた ひさとし
土方 寿聡

平成19年
名古屋市立大学卒



内科医師

おぐり たいち
小栗 太一

平成21年
産業医科大学卒

臨床研修医

のだ さえこ (平成23年愛知医科大学卒)
野田 紗恵子

ささき まきこ (平成23年名古屋市立大学卒)
佐々木 槿子

にし だいすけ (平成23年名古屋市立大学卒)
西 大輔

はるた まゆみ (平成23年名古屋市立大学卒)
春田 真由美

ふじた こうへい (平成23年名古屋市立大学卒)
藤田 浩平

かわべ まさよし (平成23年名古屋市立大学卒)
河邊 真好

平成23年4月1日付

退任した医師

皆様には大変お世話になりました。



呼吸器科部長 加藤 高志

循環器科医師 恒川 岳大

臨床研修医 岡田 佑介

鈴木 恵里奈

平成23年3月31日付

小児糖尿病外来を始めます

平成23年4月より小児糖尿病外来を始めます。
将来のある子供達を深刻な合併症から守る為に、
私達旭労災病院糖尿病療養チームにお手伝いさせて下さい。

対象:小中学生

外来:糖尿病内分泌外来

金曜日 15:45~16:45

※今後適宜、診療時間を増やす予定です

予約:病診連携室



糖尿病チームよりお知らせ

糖尿病教育入院は、これまで2週間の教育入院期間のコースを中心に行ってまいりましたが、新たに7泊8日の1週間コースを用意いたしました。

インスリン自己注射導入まで行えますのでご利用ください。

各専門スタッフが一生懸命お手伝いします。

○教育入院の内容○

- ・糖尿病のタイプの診断
- ・適切と考えられる薬剤の選択
- ・頸動脈・狭心症・心疾患のスクリーニング
- ・食事療法
- ・薬物療法
- ・フットケア
- ・インスリン分泌能の評価
- ・三大合併症の評価
- ・腹部CT
- ・運動療法
- ・個別栄養指導
- ・シックデイ対策などの生活指導

病診連携室よりお知らせ

ご紹介、お問い合わせなど、病診連携室にご一報ください。
病診連携がより円滑になるようお手伝いさせていただきます。
(連絡先は1ページに記載しています。)